

第1回 札幌市総合交通計画策定委員会 質疑概要（平成22年7月14日開催）

議論の進め方と内容について

- | | |
|-----|--|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 新幹線や路面電車、丘珠空港など、この委員会では決定できない案件の取り扱いはどうするのか。別ステージでの検討をどう取り込み、あるいはどう軌道修正していくのか。● この委員会での議論と関係部局や市議会の関係はどうなるのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">● 今後時代の変化に柔軟に見直していくための進行管理も本計画の中で考えていきたい。● 関係部局や市議会とも本計画についての確認作業のプロセスも踏まえることとなっている。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none">● 個別の具体的計画については本計画では議論せずに、札幌市の総合的な交通としての位置づけや方向性について議論する。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 札幌市環境基本計画や温暖化対策の実行計画との整合も重要である。市の環境局もメンバーに入れて欲しい。● 「モビリティマネジメント」や「賢い車の使い方」などといった観点も本計画に反映させていただきたい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">● 市内部での連絡調整をしっかりと図ることで対応していきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 「道央都市圏都市交通マスタープラン」と、この総合交通計画の関係について伺いたい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">● 道央都市圏都市交通マスタープランは、主に自治体間の広域交通を対象としていたが、総合交通計画は市内交通が中心で自転車やバス等についても議論を行う。 |
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none">● マスタープランとは「鋳型」で、その精神を受け継いで今回「実行プラン」である札幌市総合交通計画を策定する。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 交通基本法の施行で、大きく国の状況が変化した場合はどうするのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">● 国の動きも目まぐるしく変わっている状況ではあるが、随時最新の情報を提供させていただきながら、議論を進めていきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 「つなぐ(interlink)」も重要なキーワードであり、視点が一つ加わるとより方向性が広がると思う。 |
-

-
- | | |
|-----|---|
| 事務局 | ● 「つなぐ」という視点でもう一度見つめなおすことも大事だと思う。 |
| 委員 | ● 交通だけでなく、環境、福祉、観光、経済など関係部局の方も議論に参画して欲しい。 |
| 事務局 | ● 検討させてほしい。 |
| 委員 | ● 市内交通のあり方を考えるならば、モードごとで考えるのではなく、「区」ごとの交通のあり方や、区内の輸送サービスの方針を考えるべきではないか。 |
| 事務局 | ● 本計画の中で、区ごとに目標を定めて、「区」間の移動をどうすべきなのか、今後検討させていただきたい。 |
| 委員長 | ● 区ごとの交通のあり方を考えるのは、市の総合交通計画を受けて、次の検討ステージでの議論になると思う。 |
-

全体を通してのご意見

- | | |
|-----|---|
| 各委員 | <ul style="list-style-type: none">● どんな人にとっても使いやすいという視点が大事だと思う。● 他の都市と比較を行うことも必要である。● この委員会での検討結果も分かりやすく市民に示すことが重要である。● 交通情報を含めた観光案内など、情報提供をどのように行っていくのかも考える必要がある。● 広く情報発信をすることによって、市民も交通についてもっと考えるのではないか。● 冬期の高齢者対策を行うことにより、観光客にもやさしいまちになると思う。● コンパクトなまちづくりを進めながら、住まい方や人の動きを誘導するための交通のあり方も非常に重要と考える。● 観光や物流の視点から交通を考えることが、札幌のまちの活性化という意味では重要である。● 今あるものをプラスに活かしていく発想が必要であり、さらにどうしたら良い活用の方法があるのかといった視点も大切である。● 住まいと交通という視点は必要である。また、仕事や遊ぶ、憩うなどといった場面、場面の設定によって交通のあり方を考える切り口もあると思う。 |
|-----|---|
-

各委員

- 高齢化社会に対応した「きめ細やかな交通」について、札幌市独自のルールづくりも含めて検討していくことも必要である。
 - 交通モードごとの議論をする際には、誰がどの程度費用を負担し、どのような輸送サービスを提供するのかを念頭において検討していく必要がある。
 - 交通の量だけで議論するのは危険である。人の動きや生活に着目して、その生活を実現するための交通を考えることが大事である。
 - 市の情報部局で、仮想市民（ペルソナ）ごとの対策を考えて計画作りをしており、面白い取り組みで参考となる。
-